国士舘の強みを生かした教員養成へ

「防災」を通して「教育」を考える

防災と教育　新規開講

多発する自然災害の中で、子どもたちを守る要となるのが学校現場だ。多くの教員を全国の教育機関に送り出している本学では、防災を通して教育の役割を考える「防災と教育」を新規開講した。担当する文学部教育学科の江川陽介教授、郡司菜津美准教授、防災・救急救助総合研究所の都城治講師に授業へ込めた思いを聞いた。

授業の狙い

開講のきっかけは、「本学ならではの教員養成とは何か」という問いだった。今年度からの新カリキュラムを検討する教育学科の教員らが着目したのは、本学が培ってきた「防災」の知見だった。

郡司准教授　教員は、教科を教えることだけでなく、児童生徒の生命と安全を守ることも重要な役割です。教員自らはもちろん、児童生徒が「自助」をできるようになる教育が求められています

江川教授　児童生徒を守るための知識や状況判断能力、他者理解など、教育に必要な能力を防災から学べるのではないかと考えました。防災知識を身につけることはもちろん大切ですが、一番の狙いは、防災を教育視点から捉え「知識を正しい判断や行動につなげる」教育力の醸成です。これこそが本学だからこそできる教員養成だと感じました

学校防災を多角的に捉える

授業は、教育学科と防災・救急救助総合研究所の5人の教員による合議制を取り、防災と教育的知見を幅広く伝えている。

都講師　学校は、大人数の児童生徒を抱える現状がありながら、教員の訓練・準備が学校に委ねられているという現状があります。まずは教員自身が学校の立地を理解し、災害リスクを考えることが学校防災のスタートです

郡司　幼児教育が専門の青木聡子准教授は、災害時における幼児の心身状態の疑似体験をしたうえで、遊びの中に避難動作を取り入れる工夫など、発達段階に応じた教育法を伝えています。教育法学が専門の堀井雅道准教授は、全国の危機管理マニュアルを見直すきっかけとなった東日本大震災での宮城県石巻市立大川小学校の事例を基に、避難訓練の実施方法の検討など行政的視点から学校防災を伝えます。学生は、防災を多方面から捉えてその教育的視野を広げています

江川　それに加え、本授業では学びを教員目線でアウトプットすることを繰り返します。学生は、授業をただの知識習得ではなく「自分が教員だったらどうする」という目線で捉え、その気付きと考えを仲間と共有し、改善を重ねます。このサイクルは教育力のみならず、生きていく上でも欠かせない思考力を養います

防災という共通の切り口から物事を多角的に捉え、自らの考えをつくりあげる。学生らの学びはより実践的になっていく。

総合大学ならではの学びを

本授業は、全学部の教職課程履修生を対象に開講している。学部や希望教科の枠を越えた学びも本学ならではだ。

郡司　総合大学である特色を生かし、さまざまな専門性ともつながりながら、教育を考えていきたいです。大学の学びの面白さは、異なる専門の人たちと正解のない問題を一緒に考えることにもあります。豊かな知見と行動力を兼ね備えた教員の養成に結実させていきたいですね

都　学生は、防災を自分自身の問題として捉えながら専門分野に応じて学びを深めることができます。防災を一生涯学び続けることで、自分と大切な人を守る豊かな人生を送ってほしいです

本学でしかできない学びの可能性は、これからも無限大に広がっていきそうだ。

（令和8年9月取材）


文学部教育学科
江川陽介教授


文学部教育学科
郡司菜津美准教授


防災・救急救助総合研究所
都城治講師

社会で信頼される競技者へ

「国士舘アスリートプログラム」初実施

1年生400人参加

本学は、今年度より国士舘スポーツ協議会指定クラブの学生を対象とした「国士舘アスリートプログラム」を実施している。同プログラムは、競技活動での経験を人間力の向上やキャリア形成へと結びつけ、本学学生アスリートが社会で信頼される競技者・人材へ成長することを目的としている。

初回は、倫理観教育・人格形成プログラムとして9月11日、多摩キャンパス201教室で行われ、1年生約400人が参加した。

はじめに、スポーツ教育学が専門の細越淳二文学部教授が登壇し、スポーツの意義や魅力、学生アスリートの在り方について解説した。細越教授は「スポーツは、知識や思考力・判断力、学びに向かう力など、私たちを総合的に育ててくれるもの」と説明し、「学業を競技に、競技を学業へと相互に結び付けることが重要」と述べた。

続いて、体育学部の秋葉茂季准教授指導のもと、自己実現のためのグループワークを実践。参加者らは、理想の国士舘アスリート像と現在の自分を可視化し、自己実現に向けた目標設定を行った。秋葉准教授は「競技生活の中で、理想と現状のギャップを理解したうえで努力を継続すれば、良いことも辛いことも自身の糧となり、社会で活躍できる人材へと近づいていく」と学生アスリートに秘められた可能性を熱弁した。


他クラブに所属する学生と交流しながらグループワークに取り組む参加者ら

鶴川祭　地域住民と交流

町田キャンパス　体験イベント・演奏に歓声

各キャンパス学園祭の幕開けを飾る鶴川祭が10月10・11日に開催され、地域住民など約2000人が町田キャンパスを訪れた。今年のテーマは「躍（とぶ）～Next Stage～」。昨年の40周年を経て、新たな一歩を踏み出す決意が込められた。会場には約30団体によるブースが立ち並び、多彩な企画が催された。

体育学部こどもスポーツ教育学科では、恒例企画のミニ運動会やGボール教室、理科・算数・英語を楽しむ企画など、子ども向けの学習体験イベントを実施したほか、学生アスリートが指導するサッカーや剣道のスポーツ教室も開催。サッカー教室では、本学のJリーグ加入内定選手との交流会なども行われ、会場は子どもたちの笑顔で温かな雰囲気に包まれた。

そのほか、学生によるパフォーマンスやお笑いライブなどのステージ企画、21世紀アジア学部では茶道体験や和楽器の演奏・体験会などが開催され、町田キャンパスらしい特色あるプログラムを通じて大学と地域のつながりを深める2日間となった。


地域住民らも多数来場して賑わう鶴川祭＝町田キャンパス

教育後援会、同窓会から寄付金受贈

各学園祭の実行委員会は、9月16日に国士舘大学同窓会から、同24日に国士舘大学教育後援会からそれぞれ寄付金を受贈した。各委員長は、謝意を表し、各キャンパスにおける学園祭の成功を誓った。

防災総研、ランナーズ賞受賞

東京マラソン救護など評価

ランナーズ財団

本学防災・救急救助総合研究所は9月11日、公益財団法人ランナーズ財団より「第36回ランナーズ賞」を受賞した。本賞は、市民ランニングの普及と発展に貢献してきた個人や団体などに贈られるもの。

本学は平成12年に体育学部スポーツ医科学科を設置以来、同学科の教職員や学生・卒業生らを中心に各種イベントでの救護活動を通してAED活用を訴えてきた。東京マラソンでは第1回大会から救護サポートを担い、モバイルAED隊やBLS隊といった救護体制の基盤を構築した。現在も、年間約60件のスポーツイベント救護をサポートし、安心・安全な大会運営に貢献している。これらの実績が、救護技術と体制整備の両面でマラソン大会の安全確保をけん引したと評価され、受賞に至った。

田中秀治所長は「この受賞は、救急救命士や学生をはじめ、多くの関係者の努力の積み重ねによるものです。今後も、すべてのランナーが安心して挑戦できる救護体制の構築と普及に努めてまいります」とコメントし、救護体制のさらなる充実に向け決意を新たにした。

第1回大会から救護サポートを行う東京マラソン


© 東京マラソン財団

オープンキャンパス盛況

高校生ら学び体験や個別相談

本学は、8月1・2日と29日に世田谷キャンパス、同22日に町田・多摩キャンパスでオープンキャンパスを開催し、入学を希望する高校生、ご家族合わせて約1万400人が来場した。

当日は入試説明会や大学紹介をはじめ、各学部・学科の説明会や模擬授業、個別相談、学生によるキャンパス見学ツアーなどさまざまなイベントを企画し、本学の魅力を伝えた。

世田谷キャンパスでは、政経・理工・文学部で「学びチャレンジ」を実施し、学生によるゼミ紹介や実習施設での実験、古文書や考古学を通して歴史を読み解く体験など、各学部で特色あるプログラムを展開した。

町田キャンパスでは21世紀アジア学部が華道や茶道の体験会を実施。来場者は本学の科目を担当する講師から指導を受けながら日本の伝統文化に触れ、本学の授業や学びについて理解を深めた。

今年のオープンキャンパスは全9回実施し、2万人を超える来場者で賑わいをみせた。


理工学部の学びチャレンジで知恵の輪パズルに取り組む高校生＝世田谷キャンパス

災害による本学の支援措置について

令和8年熊本地震と令和8年8月千葉豪雨をはじめ、全国各地で発生した自然災害で犠牲になられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまの安全と被災地の復旧・復興を心よりお祈りいたします。

在学生の皆さんへ

本学では被災世帯の在学生に対し次のとおり経済的支援措置を講じます。

■学費等の減免

災害救助法適用地域世帯の学生に対し、被害状況に応じて大学として対応しますので、学生・厚生課までご相談ください。

【お問い合わせ】
学生・厚生課（全学部対象）
03（5451）8114

■日本学生支援機構奨学金の申請受付

給付奨学金の家計急変採用、貸与奨学金の緊急・応急採用等の申請手続きを受け付けます。

【お問い合わせ】
学生・厚生課奨学金窓口（全学部対象）
03（5451）8113

被災された受験生の方へ

令和9年度入学者選抜において、令和8年度に発生した災害救助法適用地域に居住する受験者または経費支弁者を対象に、罹災証明書に基づき入学検定料を全額免除します。また、被害状況によっては、入学金減免などの対応をします。該当者は事前に入試部までご連絡ください。

【お問い合わせ】
入試部：03（5481）3211

池田克彦 元警視総監の講演会／未来へつなぐシンポ

法学部 文学部 60周年 記念事業

昭和41年の創設から今年で60周年を迎えた法学部と文学部は、楓門祭期間中にそれぞれ周年記念行事を開催する。

法学部は11月2日に、記念講演会「警察にまつわる4つの謎」を34号館B301教室で開催する。元警視総監の池田克彦氏を招き、自身の経験をもとに、警察に関する「謎」を読み解きながら警察という仕事の本質に迫る。入場無料、事前申し込み不要。

文学部は11月3日に、記念シンポジウム「この10年を未来につなぐ」を34号館B302教室で開催する。卒業生と在学生が登壇し、社会で生きる大学での学びや本学の特色などを、対話を通して明らかにする。入場無料、事前申し込み不要。そのほか、記念誌の発行やデザイン公募型のオリジナル記念品の制作も進めている。

（3面に文学部デザイン採用の学生インタビュー）

LINE公式アカウント
友だち募集中
『国士舘大学』
LINE
でお届けします
そのほか、大学の旬のトピックスも随時配信
『国士舘大学新聞』発行のお知らせを

国士舘創立110周年記念事業の寄付金募集



■ 募金の趣意

来る創立 110 周年に向け、本学園のビジョン実現に全力を挙げてまいります。わが学園が「世のため人のために尽くしうる有為の人材の養成」の建学の精神のもと、国士舘独自の教育をもって発展を続けていることにご理解を賜り、創立 110 周年記念募金事業計画に温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

寄付金の使途


学園の総合整備


奨学基金の充実


スポーツ・文化活動の振興


国士舘大講堂の保存環境整備

- **募金目標額：10 億円**
- **募集期間：令和２(2020)年４月～令和10(2028)年３月（８年間）**
- **寄付の方法：個人でお申込みの場合、オンラインと金融機関から　振込む方法が選択できます。**

オンラインご利用の場合	金融機関ご利用の場合
クレジットカード・コンビニエンス払い・Pay-easy（インターネットバンキング）をご利用の場合は、本学ホームページよりお申込みください。	募金趣意書の巻末にある「払込用紙」でお振込みください。お手元に所定の「払込用紙」がない場合はお送りしますので右記へお申込みください。

オンラインのご案内

※法人でお申込みの場合は、お問い合わせください。
※税制上の優遇措置もございます。詳細はお問い合わせいただくか、本学ホームページをご覧ください。

■ 募金の概要

期　別	主な事業項目
通　期（2020/4～2028/3）	▶ 学生・生徒への修学支援事業
	▶ スポーツ・文化活動の振興
	▶ 国士舘大講堂（国登録有形文化財）の保存および防災対策
	▶ 高等学校・中学校の教育環境の充実
	▶ ３キャンパスの教室等の重点整備
	▶ 防災教育の推進強化
	▶ 世田谷キャンパスの再整備の検討
第１期（2020/4～2022/3）	▶ 町田キャンパスの整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスの運用開始
	▶ 多摩キャンパスの拡充整備
	▶ 近隣の救急病院等との連携構築
第２期（2022/4～2025/3）	▶ 多摩南野キャンパスの整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスへのスクールバス運行
第３期（2025/4～2028/3）	▶ 5キャンパスの施設環境の充実

※上記の「主な事業項目」は、計画の具体化により若干の変更を伴います。
また、寄付金は、総事業費の一部に充当させていただきます。

■ 終活セミナーのお知らせ

「終活」という言葉を知っていますか？もしもの時の財産整理、相続、遺産分与など、ご自身やご家族の資産について、この機会に考えてみませんか？信託銀行の専門スタッフがわかりやすく解説します。

「人生100年時代における将来への備え ～相続について考える～」

日 付 ： 11月3日（火・祝）
時 間 ： 14:00~15:00
場 所 ： 34号館A302教室

★参加料無料
★オリジナルエンディングノートプレゼント（限定100冊）

＜募金についてのお申込み・お問い合わせ＞
学校法人国士舘 募金事務室
創立 110 周年記念事業募金委員会
東京都世田谷区世田谷 4-28-1
Tel：03-5451-8207

寄付のご案内

国士舘大学新聞

題字は創立者
柴田徳次郎筆
発行所
学校法人国士舘
〒154-8515東京都世田谷区世田谷4-28-1
編集　広報課
☎ 03-5481-3115

国士舘大学

国士舘大学新聞は
ウェブサイトでも
ご覧になれます
www.kokushikan.ac.jp/information/public_relations/newspaper/
年4回・27日発行
（1・4・7・10月）

卒業生の皆様へ
いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。
発送停止やご住所の変更は下記までご連絡くださいますようお願いします。
同窓会事務局
TEL：03-3413-7303
［平日 9:00 ～ 17:00］

今号の紙面

▼熊本地震と千葉豪雨被災地に災害ボランティア派遣……【3面】
▼9月卒業・修了生らに学位記授与……【3面】
▼本学主催インターンシップに140人が参加……【5面】
▼愛知・名古屋2026アジア競技大会で本学関係選手が活躍……【6面】

「腑に落ちる」瞬間、自発的な成長を引き出す適切な助言

体育学部長・古田仁志教授

「自分を見てくれている」という安心感を与え、信頼関係を

文学部・郡司菜津美准教授

学生の成長支援へ

FD・SDシンポジウム

本学FD・IR委員会と職員研修委員会が主催する第6回FD・SDシンポジウムが7月25日、世田谷キャンパス34号館B301教室とZoomによるハイブリッド型で開催され、事後視聴者も含めて教職員504人が参加した。「学生の成長を支える『フィードバック』のあり方」をテーマに、スポーツコーチングと教育心理学の視点から、学生一人一人の成長を促す関わり方について理解を深めた。



学生の成長支援へ田原淳子学長（左）も教職員と積極的に意見交換した

はじめに、体育学部長の古田仁志教授が、ラグビー日本代表の実例を紹介しながら、「指導にはサイエンス（科学的な分析）とアート（選手に接する技術）の両方が必要」と説明。「教員は、学生が腑に落ちる瞬間を大切にし、目指す姿と現状との差を埋め、自発的な成長を引き出すための適切なサポートをするべき」と述べた。

文学部の郡司菜津美准教授は、大人数授業におけるフィードバックの実践例を紹介。授業前の感想紹介や学生への声掛けの工夫などを例に挙げ、「小さな関わりの積み重ねは学生に『自分を見てくれている』という安心感を与え、良い信頼関係を育む」と述べた。

参加者らは、学生の成長を促す適切な指導のあり方について意見を交わし、学生の視点に立った教育・支援について改めて考える機会とした。

大田原市 栃木県 と連携協定

文学部 文化財調査・研究に協力

本学と栃木県大田原市は7月30日付で、文化財等の調査・研究に関する連携協定を締結した。本協定は、考古学および日本史学分野の調査・研究ならびにそれに携わる人材育成を推進する本学と、文化財の保存・活用を推進する大田原市が相互に連携することで、実践的な学習機会の提供と地域の文化財活用の推進に寄与することを目的としたもの。

協定締結を受け、8月16日から28日まで、大学院人文科学研究科および文学部史学地理学科考古・日本史学コースの学生約50人が同市佐良土で考古学実習を実施した。奈良から平安時代の遺跡とされる小松原遺跡で発掘した土器類や地域の方から寄贈された戦争考古学に関する資料群を、使用途や特徴の違いなどを観察しながら整理した。

実習を担当する眞保昌弘教授は「地域の人々と交流しながら、歴史の舞台で地形や風土と共に出土品を理解することが、考古学ならびに文化財の保護を学ぶ上で貴重な経験となる」と協定の意義を述べた。



小松原遺跡で発掘した土器の整理作業に取り組む学生ら



伊藤准教授（左）の解説のもとグループワークに取り組む栃木市役所の職員ら

DXの推進 栃木市役所で講演

伊藤准教授、業務効率化へ伝授

本学と栃木市との包括連携協定の一環として、経営学部の伊藤直樹准教授が10月8日、栃木市役所でデジタルトランスフォーメーション（DX）や生成AIの活用について講演した。行政におけるデジタル技術の理解促進と業務効率化を目的として行われ、同市の課長級職員78人が参加した。

はじめに、伊藤准教授は全国の自治体における先進事例を交えながらDXの基礎を解説。単なるデジタル化にとどまらず、行政サービスの仕組み自体を変革する重要性を説いた。また、「DXと密接に関係するAI・データサイエンスは理系のみならず、文系こそ活用すべき」とし、専門知識とデータ分析を組み合わせる意義を強調した。

次に、行政向けAIサービスを実際に使用したグループワークが行われ、参加者は各部署の課題について意見を交わし、生成AIを活用しながら課題解決に向けたレポート作成に取り組んだ。

伊藤准教授は、「DXによる業務効率化で生まれた時間は新たな施策や住民サービスの向上に充てられる」とDXがもつ可能性を伝えた。

中学校3階建て新校舎 フレキシブルな授業空間へ

令和10年3月竣工へ 実施設計が完了



中学校新校舎のイメージ図　※イメージのため変更となる可能性があります

キャンパス整備着々

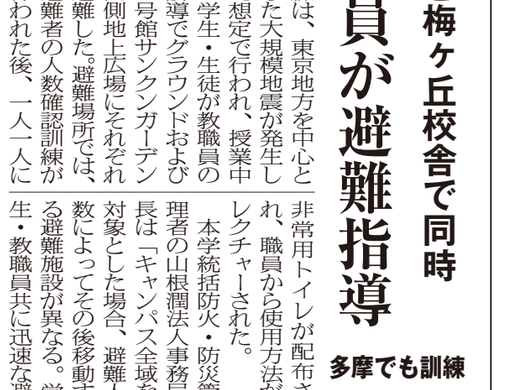
国士舘キャンパス環境整備事業の第1期として進める（仮称）梅棟の本工事は7月15日に開始し、現在は基礎工事を進めている。工事は周辺への影響に配慮するとともに、進捗レポートを随時ホームページで公開中である。

同じく第1期に予定する中学校新校舎の建設については、株式会社三菱地所設計による実施設計が10月上旬に完了した。

既存校舎に増築する新校舎は、延べ床面積約1500平方㍍の3階建て。個別学習から共同学習、プレゼンテーションなどフレキシブルな授業形態に対応できる空間づくりを想定している。

建設工事の請負事業者は戸田建設株式会社に決定し、11月には準備工事を開始、令和9年1月に着工、令和10年3月の竣工を予定している。

工事と並行して、学園ではペーパーレス化や業務のDX化など、ソフト面での変革も進めており、業務効率化による学生サービスの向上を目指している。



世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎の避難場所に避難する学生ら

世田谷校舎と梅ヶ丘校舎で同時

教職員が避難指導

多摩でも訓練

本学は、防災避難訓練を10月8日に世田谷キャンパス、同13日に多摩キャンパスでそれぞれ実施した。

世田谷キャンパスの訓練は、世田谷校舎と梅ヶ丘校舎で同時に実施し、キャンパス全域の約5400人を対象とした。訓練は、東京地方を中心とした大規模地震が発生した想定で行われ、授業中の学生・生徒が教職員の誘導でグラウンドおよび34号館サンクンガーデン西側地上広場にそれぞれ避難した。避難場所では、避難者の人数確認訓練が行われた後、一人一人に非常用トイレが配布され、職員から使用方法がレクチャーされた。

本学統括防火・防災管理者の山根潤法人事務局長は「キャンパス全域を対象とした場合、避難人数によってその後移動する避難施設が異なる。学生・教職員共に迅速な避難ができるよう把握と備えに努めてほしい」と述べた。

東京消防庁世田谷消防署の担当者らは講評で、「火災や爆発などの二次災害を防ぐため、指示が出るまでは絶対に建物内へ戻らないこと」「学園祭やキャンパスでの火気使用には十分注意すること」と指摘、「訓練と日頃からの備えを大切にし、安全な学園をつくりあげてほしい」と呼びかけた。

国際会議「ICISIP2026」優秀論文賞

富樫教授ら受賞

理工学部特別研究員の木場田慶矩さん（令和7年大学院工学研究科修士課程修了）と富樫盛典理工学部教授、塚本優正さん（令和7年理工学部卒）が、9月7日から11日に秋田大学で行われた知的システムおよび画像処理に関する国際会議「ICISIP2026」で論文発表を行い、Best Paper Award（優秀論文賞）を受賞した。

受賞論文は「スマートフォン接続型の赤外線カメラを搭載したドローンによる、太陽光パネルの表面温度測定の検証」。スマートフォンをサーモカメラと接続してドローンに搭載し、飛行状態でも安定してソーラーパネル表面の温度分布を計測・評価できることを明らかにした。さらに、計測結果から、ドローン活用によるソーラーパネル検査の新たな評価法の道筋を示した。

富樫教授は「高所や立ち入り困難な場所でのドローン利活用は多いに期待されている。今後も社会課題の解決を目指し研究を推進していく」と意欲を示した。



富樫教授（右）と木場田さん

大学見本市「イノベーションジャパン」

大高教授「焚火で発電」出展

理工学部の大高敏男教授は、8月27・28日に東京ビッグサイトで開催された「大学見本市2026～イノベーションジャパン」にブースを出展した。大学見本市は、国立研究開発法人科学技術振興機構が開催する日本最大級の産学連携イベントで、大学などにおける研究成果の社会還元・技術移転の促進および実用化に向けたマッチング支援を目的としている。



プレゼンテーションを行う大高教授

大高教授の研究テーマは、「焚火で発電　メンテナンス不要ポータブル廃熱回生装置」。これまで利用困難とされていた低温度廃熱を利用したメンテナンス不要の小型廃熱回収システムを開発した。このシステムは、エネルギーの確保が不安定な環境下においても廃熱を電気へと変換可能にするもので、災害時のエネルギー供給など幅広い活用が見込まれる。

ブースでは大高研究室の学生らもサポートし、高度な研究と産学連携の可能性を学んだ。

競争的研究課題一覧

令和8年4月～9月に採択された研究中の課題（職名は採択当時）

事業名等	氏名	所属・職名	研究課題等
公益財団法人ロッテ財団「第13回（2026年度）研究助成事業『奨励研究助成』」	長名　シオン	体育学部 准教授	アミノ酸による筋細胞プロテオスタシス制御機構の解明と筋委縮予防への応用
公益財団法人大林財団「2025年度助成」	南　泰裕	理工学部 教授	タイ・クレット島における水系住居と都市域の特性に関する研究
	位田　達哉	理工学部 准教授	地方創生を担うコミュニティ大工の空き家再生現場におけるAI安全管理
公益財団法人JKA「自転車等機械振興事業に関する補助金」	神野　誠	理工学部 教授	超微細低侵襲手術支援ロボティックデバイスの高精度位置決め機構に関する研究補助事業
東北大学金属材料研究所「令和8年度附属新素材共同研究開発センター共同利用研究課題」	神津　薫	理工学部 教授	高温Cu溶融法におけるRu_2B_3結晶の合成と物理化学的性質
公益財団法人河川財団「河川基金助成事業」	平尾　賢生	理工学部 講師	河床低下に伴う鋼管杭基礎の支持性能低下と鋼材補強効果に関する実験的研究
令和8年度京都大学人文科学研究所共同利用・共同研究拠点共同研究プロジェクト	紙屋　牧子	文学部 講師	戦後日本映画サークル協議会関連資料の研究活用に向けた基礎的研究
公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団「2026年度国内研究助成」	鈴木　慎也	21世紀アジア学部 准教授	高精度地形モデルを用いた水文解析による古代スリランカ連珠式貯水池システムの貯留機能推定と水資源レジリエンス評価
公益財団法人村田学術振興・教育財団「2026年度研究助成」	常木　麻衣	21世紀アジア学部 講師	物質文化に基づくメソポタミア王権成立期の社会変容と編年の再検討

教育後援会から寄付金受贈

本法人は、7月23日に国士舘大学教育後援会から寄付金を受贈した。

教育後援会の山田愼吾会長と猪俣友美副会長は、瀬野隆理事長に計7130万円分の目録を手渡した＝写真。内訳は、教育懇談会開催支援、スクールバス無料化支援、危機管理経費支援、英語検定試験料支援、学生福利厚生支援（学食）、教育環境整備支援、海外留学支援など11項目。危機管理経費支援としては避難所マネジメントシステム運用費や避難訓練時に学生に配布する非常用トイレ費用に、教育環境整備支援としては大阪万博会場で使用され昨年譲り受けたロッカーの保守料などに当てられる。

受贈した瀬野理事長は謝意を述べ、学生への効果的な還元を約束した。



『大学新聞』記事等3万件 アーカイブ追加

国士舘史資料室の収蔵資料をサイト上で公開する「収蔵資料の検索」に、本年6月8日『国士舘大学新聞』記事等約3万件が新たに追加され、本学沿革史資料への利便性が飛躍的に高められた。

資料室のデジタルアーカイブは平成23年に開始され、『大学新聞』記事検索は第50号までが公開されていたが、今回の追加で昭和32年1月の前身紙から令和2年4月の第520号までが閲覧可能となった。

資料室では今後も収蔵資料の随時公開を予定している。

新規採用教職員

9月1日付新規採用教職員は、次のとおり。（敬称略）

【教員】

［凡例］氏名／所属学科／職名／専門分野

●経営学部

河原　達也＝かわはら・たつや／経営学科／准教授／マーケティング

一冊いかが

『パワー・エコロジー』

著者：佐藤宏明・村上貴弘



政経学部講師　谷山　克也

皆さんは科学者とはどのような生き物だと思いますか？　白衣を着て試験管を振り実験をしている、そんな生態でしょうか？　中でも生物学者はどうでしょう？　本書は生物学者の中でもとりわけ生物に魅了され「どこかでこうなってしまった人たち」による自身の研究についてのお話です。

本書は、北海道大学の教授として研究に携わられた東正剛先生の退職を記念し出版されました。執筆者は教え子たちで、学生時代の研究を紹介しています。書名のパワー・エコロジーは造語で、直訳すると力ずくの生態学です。この言葉は、東先生の口癖に由来し「面白いと思うならとにかくやってみろ」「頭はついてりゃいい。中身はあとからついてくる」などの意味が込められています。

私は国士舘大学理工学部を卒業後、習ったことのない農学部の応用昆虫学の世界へ進みました。その時の私には知識や経験はなく、体力とやる気、たっぷりの夢だけがありました。進んだ先は夢のような時間で、頭の中は「虫たちがこの世界でどのように生き抜いているのか？」が占拠していました。彼らの生き方をどのように明らかにするか、そこから何が示せるか、何が示せないかを悩んでいました。そんな中で手に取った本の一冊が本書でした。そこには僕が求める世界のひとつがあり、大きく小さな世界を気合いで明らかにしていく魅力がありました。

好きなものに夢中なことはカッコいい。カッコいいからとにかくやる！　溶けていく時間の中で切磋琢磨するのは最高です！　みなさんが夢中と出会えますように！



あなたの“母校”が、
家族の“志望校”に

AO選抜の出願基準※には
卒業生・在学生のご家族を
対象としたものがあります。

※出願基準③【本学卒業、在学生等子女系】…
志願者の祖父母、両親、兄弟、姉妹のいずれかが、学校法人国士舘が運営する学校の卒業生または在学生である者。もしくは、学校法人国士舘が運営する学校の専任教職員（退職者を含む。）の子女である者。

※詳細や選抜制度については、本学ホームページに掲載中の『令和9年度入学者選抜要項』をご確認ください。
https://www.kokushikan.ac.jp/admission/undergraduate/

マスコミを追う

【新聞】

●相棒　カルチャー×スポーツ　アジア・アジパラ大会「スポーツで生まれる驚異的な美　お互いに高め合う相棒、技術と表現力の響き合い」において、体育学部の菊幸一特任教授のコメントが掲載（中日新聞7月31日）

【テレビ】

●「ニュースウオッチ9」において、理工学部の橋本隆雄特任教授が、豪雨災害における擁壁崩壊と住宅地に潜むリスクについて解説（NHK9月28日）

●先人たちの底力　知恵泉」において、文学部の齊藤紅葉准教授が岩倉具視について解説（NHK　Eテレ9月15日）

●「News+おやっと！」において、理工学部の位田達哉准教授のインタビューと空き家再生などに協力するゼミ活動の様子が紹介（KKB鹿児島放送9月9日）

【卒業生】

●「みいつけた！」に、空手道選手として活躍する原田明莉さん（令和8年体育学部卒）が出演（NHK　Eテレ9月18日）

●「東京出身の消防士ら　志願の片付け　羽咋　休日返上『まだ出動できないが、少しでも力に』」において、岡山雄希さん（令和8年体育学部卒）が能登半島の消防士として活躍する姿が掲載（北國・富山新聞8月30日）

熊本地震、千葉豪雨の被災地で支援

学生33人活動

本学は、令和８年熊本地震と令和８年８月千葉豪雨で被害を受けた被災地に、９月18日までに学生ボランティア33人と教職員10人を派遣した。参加したのは、本学の防災カリキュラム「防災リーダー養成論・同実習」の修了生や防災士の資格を有する有志の学生らで、被災地への思いを胸に活動に臨んだ。

熊本・八代市では、７月28日の地震発生を受け、先遣隊として防災・救急救助総合研究所の植田広樹教授と浅倉大地講師が８月５日に現地を訪問し、被害状況の調査と現地関係者との調整を重ねた。９月15日から17日のボランティアでは、被災した住宅の片付けやブロック塀の撤去などの復旧支援活動のほか、同市災害ボランティアセンターの運営を支える活動にも取り組んだ。

同14日から３日間で行った千葉・市原市でのボランティアでは、豪雨による土砂災害の被害を受けた住宅の復旧作業に当たった。小型重機を用いた整地作業も行い、本学で取得可能な「小型車両系建設機械（整地等）」の特別教育を修了した学生らが実際に重機を操縦する場面もみられた。

ボランティア活動中は、天候などの変化にも柔軟に対応し、災害現場で活動する上での安全管理や状況判断について実践的に学ぶ機会となった。

統括した浅倉講師は「被災された方々の暮らしに目を向けて必要とされる支援に取り組んだことは、学生たちにとって大きな学びとなった。今後も現地の状況やニーズを踏まえ、本学としてできる支援を考えていく」と述べた。


住宅の復旧作業に手作業で取り組む学生＝熊本地震被災地


小型重機を操縦して整地作業に取り組む学生＝千葉豪雨被災地

ボランティア

出来ない歯がゆさ…日頃の心構え痛感

熊本地震　松島 偉治さん（文学部２年）



今回の災害ボランティアでは、非常に貴重な経験をすることができました。地震の被害を報道などで見ていましたが、実際に現場で見る半壊した建物や断層に衝撃を受け、被災された方々の言葉からはその重みを実感しました。活動の中で、ボランティアとして支援できる範囲には限りがあり、やりたくてもできないという歯がゆい体験もありました。これらの経験や教訓を多くの人に伝え、災害が起こる前にどれだけ防災の意識を高められるかが重要だと感じました。

現場で初めて小型重機操縦…やりがい

千葉豪雨　小松崎 涼さん（政経学部４年）



初めて災害ボランティアに参加しました。重機と手作業による土砂崩れの整地作業・応急処置作業など幅広い支援に触れ、住民の方から感謝の言葉をいただき、大きなやりがいを感じました。特に、学内講習を受け資格を有していた小型重機を初めて実際の現場で操縦し、操縦のスキルや安全に対する意識などを高めることができたことは大きな成果です。

千葉県は度重なる豪雨で未だに不安な状況が続いていると聞きます。今後も被災地の力になりたいと考えています。

「元気」届ける！　国際ボランティア部も奔走

国際協力や地域活性化活動などを行う本学国際ボランティア部でも、８月中旬から９月中旬の５回にわたってボランティアを行い、４人の部員が活動に参加した。

同部は、千葉・印旛沼の氾濫地域の整備作業や、土砂災害の被害を受けた住宅の家具搬出作業などを行った。

主将の池田煌汰朗さん（政経３年）は、「学生ならではの『元気を置いてくる』をコンセプトに活動を行いました。被災者の皆さまに勇気や元気を伝えられていたらうれしいです」と述べた。

9月卒業生ら94人に学位記授与

経営学部㊤と政経学部㊦の卒業生と教員ら





本学は、令和８年９月卒業生および大学院修了生を対象にした学位記授与式を９月12日、世田谷キャンパスで実施した。学位取得者は、学部生90人、大学院修士課程３人、博士１人の計94人で、各学部・研究科の実施計画に基づいて挙行した。

田原淳子学長は全体会で「これまで積み重ねてこられた努力と研さんに、深く敬意を表したい。本学での経験や学びを生かし、今後それぞれの舞台で飛躍することを期待している」とエールを送り、卒業生らの未来に期待を寄せた。

全体会終了後は、各学部・研究科ごとに学位記授与式が実施され、各学部長・研究科長らから卒業生一人一人に学位記が授与された。

卒業生らは、これまでの思い出を振り返りながら卒業の喜びを分かち合うとともに、教職員からは「言葉や文化の違いに向き合いながら努力を重ねてこられたことを誇りに思う」「卒業後も本学との縁を大切にし、いつでもキャンパスを訪れてほしい」とはなむけの言葉が贈られた。

祝

院生1人、協定校から6人入学


参列した9月入学の編入生ら（前列）

本学は令和８年９月入学生として、大学院生１人と編入協定を結ぶ海外の大学から学部３年次編入生６人を迎え入れた。９月12日には、町田キャンパス30号館201教室で、21世紀アジア学部とグローバルアジア研究科が合同で入学を祝う行事を催した。中山雅之学部長をはじめ教職員は新入生に歓迎の言葉を贈り、日本での学びや学生生活を全面的に支援すると伝えた。

21世紀アジア学部とグローバルアジア研究科

新入生を代表して、陳子玥（チン・シゲツ）さんが「価値観の異なる人々との交流を大切にしながら広い視野を身につけ、互いに支え合いながら目標に向かい努力します」と宣誓した。歓迎の辞を述べた在学生代表の白師萌（ハク・シホウ）さん（４年）は、自身の留学経験を踏まえ、「困った時は教職員や先輩、同級生を頼り、安心して大学生活を楽しんでほしい」とエールを送った。

その後開かれた茶話会では、本学への編入の決め手や研究室を選んだ理由、日本での生活や趣味など、多様な話題で談笑し、会場は終始和やかな雰囲気に包まれた。

小中学校教員から「教育現場」学ぶ


小中学校教員（右）と意見交換する学生

本学は、教員に必要な知識と技能を実践的に学ぶ教職科目「教職実践演習」を開講している。

10月３日、世田谷キャンパスで行われた授業では、世田谷区立の小中学校教員23人が招かれた。「特別支援教育と教育DXに関する学校現場の実践と課題」をテーマに、講義と教職課程（中・高）を履修する学生164人とのラウンドテーブルディスカッションが行われた。

講義では、合理的配慮の工夫、専門性を高めるためのAIの活用など、教育現場での実例が紹介された。ディスカッションでは、学生らが就職後の目標や理想の教員像について小中学校教員と意見交換を重ねた。傾聴力の大切さや教室環境の工夫などの助言もあり、日々、教育現場に立つ教員の生の声を聞く貴重な機会となった。

教職実践演習

広く活躍する防災リーダーへ

養成論実習　全７学部の475人受講

「防災リーダー養成論実習」が、８月から９月にかけて世田谷キャンパスで開講され、受講する全７学部の学生475人が各３日間の実習に取り組んだ。本科目は、災害への備えや災害発生後に幅広く対応できる防災リーダーの育成を目的としており、令和４年度からは本学副専攻制度「防災リーダー副専攻」の必修科目にも位置付けている。

実習では、煙体験や初期消火訓練、要配慮者の搬送訓練などを実践し、災害現場の実情をイメージした。座学では、被災者の心理的サポートや避難所の運営などについて実学的に学ぶとともに、東京都が配布する「東京マイ・タイムライン」を用いたワークも実践。居住地域のハザードマップを参考に、災害発生時の避難場所と経路を確認し、日常から防災意識を高めておく重要性について理解を深めた。

学生らは、さまざまな活動から周囲と協力する「共助」の大切さを学び、防災リーダーとしての実践力を高めた。


多くの来場者でにぎわった「ＤＩＹストリートパーク」

三軒茶屋に「ＤＩＹストリートパーク」設置

西村研究室が空間演出

自作テーブルや椅子…公共空間利活用

公共空間のデザインを研究する理工学部まちづくり学系の西村亮彦研究室は９月22日、三軒茶屋・茶沢通りの歩行者天国に約60㎡の芝生エリア「ＤＩＹストリートパーク」を設置し、来場者が滞留できる空間を演出した。

学生らは、DIYで設計・施工したテーブルや椅子を芝生エリアに設置したほか、ストラックアウトなど子ども向けコンテンツを企画・運営した。当日は、さまざまなニーズに応える憩いの場となり、多くの人でにぎわった。

同日にふれあい広場で開催されたマーケットのメインブースの造作も担い、学生らは、まちの人々が楽しむ場を自らの手でつくり出す実践を通じて、公共空間のあり方やまちづくりの可能性を広く学んだ。

西村研究室は「出張ＤＩＹ広場」を各地で実施し、まちの課題をデザインで解決する取り組みを行っている。


災害時に備え２人一組で傷病者の搬送訓練に取り組む学生ら

救急車に同乗、現場経験

スポーツ医科学科の163人

体育学部スポーツ医科学科が開講する「救急用自動車同乗実習」が８月10日から９月16日にかけて実施され、同学科３年生163人が都内の各消防署で実習を行った。本実習は、厚生労働省が定める救急救命士学校養成所指定規則に基づいて行われるもので、本学では東京消防庁の全面的な協力のもと毎年実施している。

実習期間中、学生らは実際に救急用自動車に乗り込み、救急隊長指導のもと、現場での救急活動を見学した。現場は救急要請ならではの緊迫した空気となる中、学生らは講義で学んだ基礎知識を生かしつつ、隊員たちの救急対応や業務などを肌で感じ、より実践的な学びを得た。

参加した布施沙綾さん（３年）は、「傷病者の状態を継続的に把握しつつ、臨機応変に対応していく大切さを学びました」と振り返り、「今回の経験をこれからの学びに生かして消防官の夢を実現させます」と決意を新たにした。


救急資器材を点検する布施さん（右）

教育懇談会　新潟・大阪も盛況



多数のご家族らが参加し教職員らと意見交換、親睦を深めた教育懇談会＝大阪会場

今年度全日程終了

本学は、令和８年度教育懇談会を９月６日に新潟市、10月４日に大阪市でそれぞれ開催し、今年度の全日程を終了した。今年度は、５月30日の世田谷キャンパスを皮切りに、町田・多摩キャンパスと地区会場合わせて全８回開催し、全学部の１～４年生合わせて171２人のご家族が参加した。

各会場では、田原淳子学長をはじめ国士舘大学教育後援会の山田愼吾会長、各学部およびキャリア形成支援センターの教職員らがご家族を出迎え、本学の教育活動や就職支援について説明した。

地区会場では、細越淳二教務部長が授業やクラブ活動、学生支援体制まで学生生活の様子を幅広く紹介。教員との個別相談などのプログラムも実施し、親元を離れて学ぶ学生のご家族と修学状況や将来の進路について意見交換を重ねた。

「国士舘を語る」発行に寄せて

文学部教授　松野 敏之



著　者　佐藤圭一・松野敏之・三澤勝己・織田健志・池元有一・大場一央・吉原裕一
発　行　成文堂
価　格　1980円（税込）

本書は全学共通教育科目「国士舘を語る―継承する精神文化の探求―」のテキストである。令和６年度より学部・学科・学年を問わず、自由に学ぶことができる「全学共通教育科目」が設置された。同科目はそのコアカテゴリーに位置づけられるものであり、受講者各位が「誰かに語りたくなるくらい国士舘に興味を持ってほしい」という願いが込められている。

本書では国士舘がどのような想いによって創建され、どのような人々が関わってきたかを詳細に「語る」。それは単に年表として過去を眺めることではない。当時の人々の苦悩や国士舘に託した夢の探究を目的とする。

本には「自分だけがいかに得をするか」という自己主義・功利主義とは異なる唯一無二の精神文化があった。

そこで幕末に吉田松陰が主宰した松下村塾を目指して創立されたのが国士舘である。柴田徳次郎館長らは、国士舘創立を通して日本文化を継承する「国士」を養成しようとしたのである。自分のことだけでなく、他者や社会のことを考え、行動できる人になってほしいという想いである。これに賛同したのが徳富蘇峰・頭山満・渋沢栄一らであった。

本書は多くの資料やコラムを駆使しながら国士舘創立時の想いを明らかにする。

（寄稿）

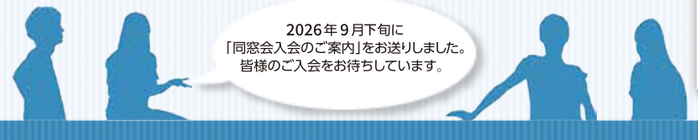
4年生の皆様へ
国士舘大学同窓会入会のご案内



◀会員証

国士舘大学同窓会は、昭和49年の設立以来、会員の親睦互助を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的に活動してまいりました。会員数は現在約150,000人。全国に52支部を設立し、会員相互の連携・交流事業を通して絆を深めています。学園祭・就職支援など在学生会員をサポートしています。卒業後も母校国士舘の同窓生として、後輩たちの道しるべに…

＜母校、在学生に対する諸事業＞
□ 卒業記念品の贈呈
□ 学園祭、学生諸行事への支援ほか
□ 割引率の高い学生総合保険の紹介
（学費納入者が万一の場合の学費補償、疾病、傷害、賠償責任が補償されます）
□ 在学生のための就職支援を行う会員団体への援助
（支部就職支援委員会、楓教育会など）
□ 母校記念事業募金の支援
（同窓生への協力呼びかけ、行事企画参加など）
□ 箱根駅伝、各種スポーツへの支援



国士舘大学同窓会
https://www.kokushikan-dousou.jp/
国士舘大学同窓会本部 Facebook
https://www.facebook.com/kokushikan.dousou
お問い合わせ　同窓会事務局：03-3413-7303

国士舘大学・中学・高等学校保護者の皆さまへ
学生総合傷害保険のご案内

安心、安全の学生生活を過ごすために
様々なリスクを24時間補償
団体割引適用

● 1回の手続きで卒業予定日まで補償
（在学生の途中加入も可能です）
● 学校内やインターンシップ、アルバイト中のケガや第三者への賠償責任、扶養者に万が一の事故があった場合の学費の補償にも対応

お問い合わせ先：
株式会社国士舘メンバーズ
TEL：03-6804-0840

文学部　～この10年を未来につなぐ～

藤村さん（教育学科）が60周年記念品のデザイン


文学部での学びを生かして60周年記念品のデザインを制作した藤村さん



文学部は、創設60周年記念品に使用するイラストのデザインを「この10年を未来につなぐ」をテーマに公募し、教育学科初等教育コース４年の藤村航太さんの作品が採用された。

作品は学園を象徴する楓をモチーフにし、躍動感あふれる動きをもたせて未来へ向かう様子を表現した。選考委員会からは、風になびく赤い楓が文学部を盛り立てる「焔（ほのお）」のようにも感じられ、テーマをよく具現化していると高く評価された。

藤村さんは「文学部は新しい挑戦を受け入れてくれる場所」と話し、「教育実習を経験する中で、『新たな挑戦がしたい』という思いが芽生えて応募しました。心を込めて制作したので、採用されてうれしかったです」と喜んだ。記念品はトートバッグで、60周年記念シンポジウム終了後に来場者らに配布する予定。



インタビューをWEBで公開中　国士舘大学大学院

理論と実践の「知の拠点」として高度で専門的な研究に取り組む10の研究科

政治学研究科 ｜ 経済学研究科 ｜ 経営学研究科 ｜ 法学研究科
総合知的財産法学研究科 ｜ 工学研究科 ｜ 人文科学研究科 ｜ スポーツ・システム研究科
救急システム研究科 ｜ グローバルアジア研究科

国士舘大学大学院

□世田谷キャンパス「梅ヶ丘駅」　□町田キャンパス「鶴川駅」
□多摩キャンパス「小田急永山駅」「京王永山駅」下車
TEL:03-5481-3140 〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

「命を救いたい」研修生の志 エジプト現地指導者へ成長

病院前救急医療研修第10期を終えて　防災総研・植田広樹副所長





病院前救急医療研修プログラム修了生（左から２番目）がエジプト現地で指導する様子

エジプトと本学が業務委託契約を結ぶ「病院前救急医療研修プログラム」が第10期をもって終了し、100人の修了生を輩出した。本プログラムを主導してきた本学防災・救急救助総合研究所副所長の植田広樹教授＝写真＝に、その成果と未来について伺った。

●「指導者育成」本学の強み

プログラムでは、6期終了後から現地研修を追加し、同国の現状を確認してきた。植田教授は、救急救命士の教育体制が整っていないことが現地の一番の課題と考え、7期からはプログラムを「日本の技術を伝えるもの」ではなく「研修生を現地指導者へと育てるもの」として方針転換した。

これを可能にしたのが、教育機関としての本学の強みだった。植田教授は「救急救命、防災、教育、研究を横断して考えられる。そして何より教育機関だからこそ、教育手法そのものを伝えられた」と語る。本学の資源を存分に活用した幅広いプログラムを展開したことで、研修生らの教育力向上につながった。

●修了生奮闘　現地に還元

プログラム修了生は自国で着実に活躍の場を広げている。特筆すべきは、現地で2カ月間の救急救命士養成プログラムを実施していることだ。植田教授は「修了生が、日本での経験を自国流にアレンジしながら現地に還元し、後進を育てる、この教育の連鎖ができたことは大きな一歩」と手応えを口にする。さらに、「エジプト国内のリソースで完結する自立した救急医療人材育成システムの構築を目指してほしい」と期待を寄せる。同国は、人口が多く救急医療へのニーズも大きい。体制が確立されれば、中東・アフリカ地域でのモデルケースとなる可能性も秘めているのだという。

●持続可能な支援、諸外国に

本プログラムを終え、植田教授は「単なる知識や技術の伝達にとどまらない国際的な信頼関係を構築することができた」と振り返る。現在、同研究所は支援が必要とされている複数の国々で病院前救急医療体制に関する国際協力を行っている。共通して目指すのは「人を育てる」だけでなく、「人を育てる仕組みを共に考え、つくる」こと。「患者を観察して、どのように判断し、なぜその処置をするのか。その思考過程と『命を救いたい』という志は国境を越えても変わらない。各国の文化や環境に合わせた支援ができる研究所であり続けたい」。同研究所は、持続可能な国際協力を通して〝未来の命〟を守っていく。

実習内容や発見、学び共有

インターンシップの成果発表



座談会で受入団体の担当者と意見交換する学生

本学キャリア形成支援センターは9月17日、学部3年生を主な対象とした本学主催インターンシップの成果発表会を世田谷キャンパス34号館で開催し、参加学生や受入団体関係者らが出席した。今年の本学主催インターンシップには、85団体の協力のもと、学生140人が参加した。

成果発表では、学生らは20班に分かれ、実習内容や得られた気づき、学びなどを発表した。さらに、今年度からは業界研究の視野を広げるため、受入団体の担当者と学生による座談会も実施され、書類選考や面接のポイントなどについて積極的に意見を交わした。

福永晶彦キャリア形成支援センター長は、実習の経験を今後の学生生活や就職活動に生かすよう激励し、学生らは就職活動へ向けて意欲を高めた。

就職活動　イベント情報

【2028年３月卒業・修了、2029年３月卒業予定者対象】

●業界研究フェア
約200団体が出展。就職活動の早期スタートにつなげよう！
【日時】2027年２月５日
【場所】新宿・京王プラザホテル

●就活！HOT　SPACE
４日間で約200団体が出展する学内業界・研究セミナー
【日時】2027年２月８日～10日・12日
【場所】世田谷キャンパス34号館

学生交流プログラム

ふるさと納税　貰って嬉しいのは?!

世田谷区内の６大学　協働で返礼品考える



ふるさと納税の返礼品についてアイデアを出し合う６大学の学生

世田谷区学生交流プログラムが8月25日と9月1日に開催され、世田谷区内6大学（国士舘、駒澤、昭和女子、成城、東京都市、東京農業）の1・2年生28人が参加した。本プログラムは、世田谷区と加盟6大学および区内産業界で形成される世田谷プラットフォームが主催し、参加学生らの地域・行政への理解と企画力・表現力の向上などを目的としている。

今回は「世田谷区に寄付したくなるふるさと納税の返礼品を考えよう」をテーマに、学生ならではの視点から同区の特徴を生かした返礼品を考えた。学生らは、新庁舎見学などで区の特色を学んだのちに、参加者同士で交流を深めながらそれぞれのグループでアイデアを練り上げた。各グループからは、ターゲット層や金額設定などを踏まえたうえで、体験型プログラムやグルメクーポンなどの多角的な返礼品のアイデアが発表された。

本学から参加した学生は「交流を通じてさまざまな視点や考え方を学ぶことができた」「今後の就職活動などに生かしていきたい」と話し、協働の重要性を学ぶ機会とした。

区役所新庁舎の解説映像を撮影

昭和女子大と協力　せたがやeカレッジで配信へ

生涯学習動画配信サイト「せたがやeカレッジ」で配信する映像授業の撮影が9月24日と29日の2日間、世田谷区役所本庁舎と本学で行われた。同サイトは、区教育委員会と区内の6大学が共同で運営し、各大学の教員らによる知識材料を無料で配信する学習サービス。

今回の講座は、「世田谷区役所新庁舎」をテーマに、その新しい公共空間としての魅力を解説するもので、建築構造を専門とする理工学部の小久保彰研究室と建築意匠・計画を専門とする昭和女子大学の田村圭介研究室が合同で実施した。

当日は、新庁舎やせたがやイーグレットホールを巡るフィールドワークと講義を撮影。小久保准教授らは、旧庁舎の意匠や既存建物を継承・活用している背景のほか、建物の基礎や耐震構造、免震構造など災害時にも機能する庁舎としての整備状況を解説した。映像には各研究室の学生らも出演し、交流を図りながら積極的に質疑応答を重ね、建築への知識を広く深めた。

撮影した映像は11月中旬に同サイトで公開される予定。



世田谷区役所新庁舎内でフィールドワークに取り組む学生一行

音が出れば　それはもう音楽♪

世田谷区 STEAM 教育講座

中村准教授、児童に魅力伝える

世田谷区が主催するSTEAM教育講座が8月7日、区立教育総合センターで開催され、音楽教育学を専門とする文学部の中村昭彦准教授が「誰にでもできる音楽づくり」をテーマに、集まった小学生17人にワークショップを行った。

ワークショップでは、中村准教授がジャズの代表曲「Cジャムブルース」を学生とともに演奏し、クイズを交えながら演奏の成り立ちを紹介した。参加児童らは、説明をもとに木琴とピアノに触れ、指定された音を使いながらジャズのリズムに合わせて自由に旋律を奏でた。その後、ハンドサインを用いた即興演奏が行われ、参加児童らは中村准教授のハンドサインに合わせて演奏に挑戦し、好きな楽器を使用してそれぞれ思いのまま音楽を楽しんだ。

中村准教授は「音楽が苦手だと感じる子もいるかもしれないが、音楽に正解はない。音が出ればそれはもう音楽。これからも自由に演奏を楽しんでほしい」と呼びかけた。参加児童は「演奏が楽しく、時間があっという間に感じた」と笑顔をのぞかせた。



ピアノの演奏に挑む児童ら

中学生、国士舘史資料室など職場体験

本学は毎年各キャンパスで近隣中学校の職場体験に協力している。今年は9月から10月にかけて、世田谷キャンパスの中央図書館と国士舘史資料室で区内の桜木中学校、梅丘中学校、世田谷中学校、桜丘中学校の生徒合わせて11人の受け入れを実施した。

9月8日から11日には、梅丘中学校の生徒3人が国士舘史資料室で体験を行い、資料の収集および保存・管理や展示方法のポイントなど博物館学芸員の仕事について学んだ。生徒らは、松陰神社に足を運び境内の調査を実施。自ら撮影した写真で展示用パネルを製作＝写真＝し、最終日には、活動の成果を教職員に向けて発表した。

生徒からは「展示用パネルを切るのが難しかった」「松陰神社の歴史を知ることができた」などといった感想が聞かれ、充実感をにじませた。



海外研修体験記

国際交流センター主催の短期留学（海外研修）が８月から９月にかけて実施され、ニュージーランド、フィリピン、アメリカでの約４週間のプログラムに43人の学生が参加した。ニュージーランドのオークランド大学とフィリピンのラプラプセブ国際大学での体験記を紹介する。



現地の子どもたちと佐藤さん（後列左）

フィリピン

21世紀アジア学部　2年　佐藤　由宗

心を動かす教員へ決意

今回のフィリピンへの短期留学を通して、私は英語力だけでなく、自分の将来について改めて考えることができました。

フィリピンで生活する中で、日本とは異なる文化や生活環境を経験しました。英語を使った生活では、最初の頃はなかなかコミュニケーションが取れず、自分の考えを思うように伝えられなかったり、相手の英語を聞き取れなかったりする場面もあり、自分の語学力向上への課題を感じました。しかし、現地の人と英語でコミュニケーションを取れるようになってきたときには、英語は単なる学習のためのものではなく、人と人をつなぐための手段であると実感しました。

特に印象に残っていることは、スラム街で子どもたちに英語を教えた経験です。実際に授業を行う中で、子どもたちと関わりながら教えることに大きな楽しさを感じました。そして、「自分は教員になりたい」という強い思いを改めて認識することができました。また、現地で出会った教員を目指す先輩との交流も、自分の進路について考える大きなきっかけとなりました。

今回の短期留学を通して、英語を学ぶことだけでなく、人と関わり、誰かの学びや成長に関わることの楽しさを知ることができました。そして、これまで自分が目指してきた英語教員という将来の夢への思いをより一層強くすることができました。

この短期留学で感じた難しさや楽しさ、さまざまな経験を今後の学びに生かし、英語力をさらに高めるとともに、生徒一人一人と向き合い、誰かの心を動かすことのできる教員を目指していきます。



ニュージーランドの自然を体感する安さん

ニュージーランド

21世紀アジア学部　3年　安　智雄

自分らしい生き方発見

韓国と日本で暮らす中で感じていたことがあります。それは、多くの人が常に忙しく生きているということです。一つのことが終わるとすぐに次のことが始まります。夜寝る時も「今日が終わった」というより「明日のために寝る」という感覚で過ごす人が多いと感じました。

国語や日本語は「私は○○をする」のように動詞が最後にきますが、英語では「I DO～」と主語のすぐ後に動詞がきます。語順だけで考え方が決まるわけではありませんが、言語と文化のつながりについても考えるきっかけとなりました。西洋文化の中にも、さまざまな考え方があり、今回の海外研修を通じて、それぞれの国の価値観を改めて知ることができました。語学力だけでなく、自身の生き方についても新しい視点をもてる貴重な時間となりました。

今後も、忙しい日々が続く中で、今までと変わらない考えや生き方を続けていくかもしれませんが、もし自分が家族をもった時には、個々の考えや価値観を大切にできるような生き方をしていきたいです。

商業学校創設100年と世田谷

創立109年の記念日を11月4日に迎える本年、本紙第544号「資料室だより61」にも記した通り、大正15（1926）年4月の国士舘商業学校の創設から数えて100年にあたる。夜間開講であった商業学校の特徴のひとつは、世田谷周辺地域と国士舘との協同運営であった点にある。

なかでも世田谷町・駒沢町・松沢村・玉川村・目黒町・碑衾町の周辺6町村が、補助金を交付していたことはその好例である。今回は商業学校の関連史料をひもときながら、地域とのつながりを紹介する。

国士舘商業学校は、実業学校令などに基づいた中等教育機関で、世田谷周辺の勤労青年に向けた教育を主眼に置いた。校長には、地域の名士である大場信續が就いた。大場家は、近世初期から彦根藩井伊家世田谷領の代官を歴任した名家で、近現代においても地域の振興に尽力している。

当初、信續は国士舘を「反動思想」集団とも想像していたものの、後にその理念に共鳴し「士魂商才を現実化」すべく国士舘商業学校の創設に尽力する。大正15年2月2日、大講堂に各町村の有力者が集い、学校新設後の運営方法を協議して、各町村費から毎年の補助金支出が決定される。

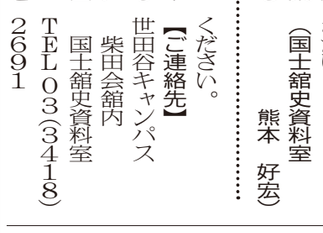
写真は同日の関係者一同である。列記すれば着座の前列右から、世田谷町長山崎四六、碑衾村長角田光五郎、駒沢町長谷岡貫二、荏原郡長宮城栄三郎、目黒町長土生文之助、同町助役神山錠五郎、同町助役須田銅治、駒沢町会議員倉形源蔵、豪徳寺住職梶川乾堂、前世田谷町長相原栄吉である。後列には、右から駒沢町会議員秋山紋兵衛、同町助役中村元治、同町会議員志田又七、国士舘柴田徳次郎、校長大場信續、世田谷町学務委員小川清次郎、同町会議員松宮七五郎、国士舘石井澄之助、同花田半助である。左上白枠には、右から松沢村長大庭覺太郎、同村助役笈沼善之助、同村会議員上保角蔵である。関係6町村のうち玉川村長豊田正治は確認できないが、村費支出の決議書には署名したことがわかっている（『百年史　史料編上』451頁）。

関係6町村の補助金は、商業学校運営費の約2割弱を占めた。補助額を記すと、初年度の大正15年度は計2100円、昭和2年度1950円、3年度1650円、4年度1700円、5年度1200円、6年度7年度は各930円であった。昭和恐慌の影響から次第に減額となっているが、補助金の約5割は世田谷町が負担した。昭和7年10月に各6町村は世田谷区・目黒区に再編されるが、8年度以降も世田谷区1000円・目黒区130円の計1130円が、継続して国士舘商業学校へ支弁されている（『商業学校十年小史』）。

卒業生の半数は近隣自治体の行政職に就き、2割は銀行・民間会社で活躍した。詳細な勤務地は不明であるが、卒業生の多くは地域の発展に寄与したと推測できる。

国士舘商業学校は、現代版「地域連携」ともいえる学校であった。この商業学校をテーマに、11月2・3日の楓門祭を含む会期で、恒例の創立記念展を催す。会場の国士舘大講堂にお立ち寄り頂きたい。

（国士舘史資料室　熊本　好宏）



商業学校創立相談会（大正15年２月２日）

◆資料提供のお願い◆

国士舘に関する資料や情報のご提供をお願いしています。例えば講義ノートや実習道具、思い出の写真・アルバムなど、学生時代の資料をお寄せください。

【ご連絡先】
世田谷キャンパス
柴田会館内
国士舘史資料室
TEL03（3418）2691

ローバークラブ　発団50年



記念撮影する団員ら

本学ローバークラブが発団50年を迎え、7月12日に世田谷キャンパスの多目的ホールで記念式典が開かれた。同クラブは、社会貢献活動を求める学生の声に突き動かされた瀬野隆理事長（当時は政経学部二部講師）らが昭和52年に創部。現在は約20人の学生が所属し、ボーイスカウト世田谷第25団のスカウト活動やキャンプ、ボランティア活動などを通じて、世代間交流を図りながら青少年育成に貢献している。

式典では、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟から瀬野団委員長に対し、青少年の健全育成に寄与したとして特別年功章五十年章が授与された。

訂正

本紙第545号4面のエジプトとの病院前救急医療プログラムの記事について、開催期間は7月11日まで、記事中の写真中央は、保健人口省のハーリド・アブドゥル・ガッファール大臣です。お詫びして訂正いたします。

令和９年度（2027年度）　国士舘大学大学院 入学試験日程

研究科	試験期	出願受付期間（郵送消印有効）	試験日	合格発表（12:00～）
政治学	Ⅱ期	10/29（木）～11/12（木）	11/29（日）	12/４（金）
	Ⅲ期	1/７（木）～1/21（木）	2/６（土）	2/12（金）
経済学	Ⅱ期	1/７（木）～1/21（木）	2/６（土）	2/12（金）
	Ⅲ期	2/４（木）～2/18（木）	3/７（日）	3/12（金）
経営学	Ⅱ期	1/７（木）～1/21（木）	2/６（土）	2/12（金）
工学	Ⅱ期	2/４（木）～2/18（木）	3/７（日）	3/12（金）
法学	Ⅱ期	1/７（木）～1/21（木）	2/７（日）	2/12（金）
	Ⅲ期	2/４（木）～2/18（木）	3/７（日）	3/12（金）
総合知的財産法学	Ⅱ期	10/29（木）～11/12（木）	11/29（日）	12/４（金）
	Ⅲ期	2/４（木）～2/18（木）	3/７（日）	3/12（金）
人文科学	Ⅰ期	10/29（木）～11/12（木）	11/29（日）	12/４（金）
	Ⅱ期	2/４（木）～2/18（木）	3/７（日）	3/12（金）
スポーツ・システム	Ⅰ期	10/29（木）～11/12（木）	11/28（土）	12/４（金）
	Ⅱ期	1/７（木）～1/21（木）	2/６（土）	2/12（金）
	Ⅲ期	2/４（木）～2/18（木）	3/６（土）	3/12（金）
救急システム	Ⅰ期	10/29（木）～11/12（木）	11/28（土）	12/４（金）
	Ⅱ期	1/７（木）～1/21（木）	2/６（土）	2/12（金）
	Ⅲ期	2/４（木）～2/18（木）	3/６（土）	3/12（金）
グローバルアジア	Ⅰ期	10/29（木）～11/12（木）	11/28（土）	12/４（金）
	Ⅱ期	1/７（木）～1/21（木）	2/６（土）	2/12（金）
	Ⅲ期	2/４（木）～2/18（木）	3/６（土）	3/12（金）
	秋期	5/６（木）～5/20（木）	6/５（土）	6/11（金）

入試説明会

12月５日（土）13：00～15：00
受付開始（12：30～）　※事前申込制

■場所
国士舘大学　世田谷キャンパス
梅ヶ丘校舎34号館 B棟３階 301教室

■プログラム
研究科の紹介／入試案内／研究科ごとの個別相談

■募集研究科
修士・博士課程
政治学研究科／経済学研究科／経営学研究科
法学研究科／総合知的財産法学研究科（修士課程）
工学研究科／人文科学研究科／スポーツ・システム研究科
救急システム研究科／グローバルアジア研究科

■お問い合わせ先
国士舘大学 教務部 大学院課
TEL:03-5481-3140

詳しくは国士舘大学大学院ホームページをご覧ください。
国士舘大学大学院　検索

2028ロス五輪切符　日本勢1号

西本選手ら躍動　世界選手権「銀」


世界選手権で銀メダルに輝きロス五輪切符を獲得した選手とコーチ陣（左から3人目が西本選手）
(Photo by Miu Sasaki)

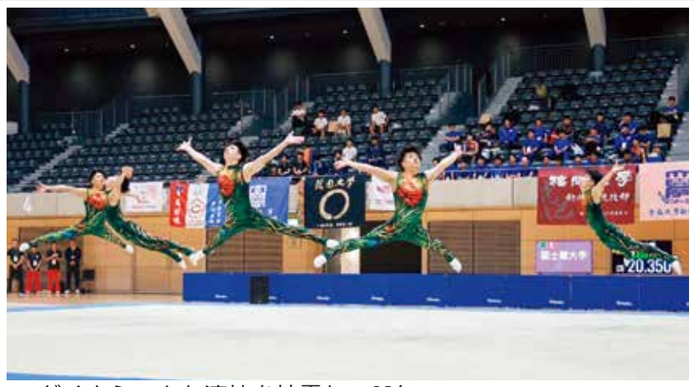
第42回世界新体操選手権フランクフルト大会が8月12日から16日にドイツ・フランクフルトで開催され、西本愛実選手（21ア1年）が所属する日本代表が団体総合2位に輝き、2028年ロサンゼルスオリンピックの出場枠を獲得した。

前回大会で初優勝を果たした日本代表は、連覇のプレッシャーがかかる中、初日のフープ・クラブから圧巻の演技を披露。これまで磨きをかけてきたフェッテターンの場面で、5人の動きが揃った精度の高い同時性を見せると、2日目のボールでも抜群の集中力で演技をつなぎ、合計得点56・700をマーク。団体総合銀メダルに輝き、日本選手団最速となるロス五輪出場枠を獲得した。

西本選手は、「団体総合銀メダルとロス五輪の出場枠を獲得できてうれしいです」と笑顔をみせ、「五輪でメダルを獲得するには、いつでも安定して圧倒的な演技をできる力が必要です。ここからが勝負だと思うので、一度心と体を休ませてからまた頑張っていきます」と前を見据えた。

男子団体新体操28年ぶりV

全日本学生新体操　宿敵・青森大を破る


ダイナミックな演技を披露し、28年ぶりの優勝を果たした男子新体操部

第78回全日本学生新体操選手権大会が8月18日から21日に群馬・高崎アリーナで行われ、本学男子新体操部が団体総合優勝を果たした。団体総合優勝は28年ぶりの快挙。

立ちはだかったのは、24連覇を誇るライバル・青森大学。本学は、ダイナミックな演技を披露し、芸術点・実施点ともに同大にわずかにおよばなかったものの、構成（難度）点4・2の高得点をたたき出した。熾烈な優勝争いを制し、総合得点0・375点差で悲願を達成した。

また、個人種目別では貝瀬壮選手（体育4年）が全4種目で3位、神山貴臣選手（同3年）もクラブで2位を獲得するなど活躍が光った。

米良陽希主将（同4年）は「優勝は、先輩方の思いも背負ってチームで支え合い練習を重ねた成果。全日本選手権に向け課題に向き合い、質の高い演技を追求していきます」と熱を込める。10月30日からの全日本選手権では、令和2年以来となる団体優勝を目指す。

世古選手、女子円盤投げ優勝


世古櫻紗選手

日本学生陸上競技対抗選手権

第95回日本学生陸上競技対抗選手権大会が9月5日から7日にかけて、神奈川・日産スタジアムで開催され、女子円盤投げで世古櫻紗選手（体育2年）が優勝に輝いた。

世古選手は、ファウルなどで出遅れ、3投目を終えて暫定6位につける苦しいスタートとなった。それでも、徐々にリズムを取り戻した5投目に47㍍46のビッグスローを決め上位選手を一気に逆転、首位に躍り出た。最終6投目こそファウルに終わったものの、見事に逃げ切り金メダルをつかみ取った。

世古選手は、「万全なコンディションではありませんでしたが、何とか優勝することができました」と笑顔で話し、「今回の結果で満足することなく、もっと上を目指し練習に励んでいきます」と気を引き締めた。世古選手は、砲丸投げでも5位入賞を果たした。

そのほか、男子やり投げでは國安大悟選手（体育3年）が3位入賞で銅メダルを獲得した。

工藤選手、山本選手破り優勝

男子100㌔㍍超級　同門対決


男子100㌔㍍超級決勝戦で熱戦を繰り広げる工藤瑠希選手（右）と山本由聖選手

全日本学生柔道体重別選手権

第45回全日本学生柔道体重別選手権大会が9月26・27日に東京・日本武道館で開催され、工藤瑠希選手（体育3年）が100㌔㍍超級の王者に輝いた。

予選の東京都学生体重別大会を制して好調の工藤選手は、勢いそのままに本大会でも躍動。4回戦までをオール一本勝ちと圧倒して勝ち進んだ。

決勝戦では山本由聖選手（同2年）との同門対決となった。勝負が動いたのは開始1分。山本選手の内股を返した工藤選手が技ありを奪い先制。その後は、一進一退の攻防が続く中、工藤選手が山本選手の果敢な寝技に粘り強く耐えきり優勝を手繰り寄せた。

工藤選手は、「日本一のタイトルを初めて獲ることができてとてもうれしいです。学生体重別団体での優勝と講道館杯での上位進出を目指していきます」と力強く話した。

同階級で敗れた山本選手のほか、81㌔㍍級の竹吉瑞樹選手（同2年）が準優勝となった。


81㌔㍍級で準優勝した竹吉瑞樹選手

白波瀬選手　西本選手　銀　銀

新体操団体　ASチーム


鮮やかな演技を披露したASチームの白波瀬菜桜選手（右端の後列）と小林唄選手（左端の中列）＝令和7年卒　＝フォート・キシモト提供


フェアリージャパンの一糸乱れぬボール演技。最前列が西本愛実選手　＝フォート・キシモト提供

32年ぶりの日本開催となった第20回アジア競技大会と第5回アジアパラ競技大会。本学関係選手・スタッフらも健闘し、観客の心を震わせた。

※　※

アーティスティックスイミングでは、白波瀬菜桜選手（体育1年）が小林唄選手（令和7年体育学部卒）とともにチームで6大会連続となる銀メダルを獲得した。フリールーティンでは、武士道をテーマに日本らしい力強い演技を披露。国内開催ならではの大声援を受けながら鮮やかな足技とアクロバティック技で会場を魅了した。

新体操団体総合の西本愛実選手（21ア1年）は、世界選手権に続いての準優勝に輝いた。西本選手らは、精密な演技と一糸乱れぬ回転技で観客を沸かせ、優勝にはあと一歩届かなかったものの、意地の銀メダルを獲得した。ピラパンデ・ペーウー・ミサト選手（21ア3年）もラオス代表として個人総合に出場し、華麗な演技を披露した。

嶋田選手　銅　空手女子組手61㌔㍍級

果敢に攻める嶋田さらら選手㊨　＝アジア空手道選抜提供


保本野乃葉選手　＝フォート・キシモト提供

女子クリケット　保本選手ら健闘

クリケットの保本野乃葉選手（理工3年）は強豪国のインドを相手に惜敗したものの、その勇姿で感動を与えてくれた。空手道では、女子組手61㌔㍍級の嶋田さらら選手（令和6年体育学部卒・本学職員）が抜群の試合運びで相手を圧倒して銅メダルを獲得した。

卒業生も大活躍

そのほか、卒業生では柔道男子60㌔㍍級の近藤隼斗選手（令和6年体育学部卒）と男子90㌔㍍級の岡田陸選手（令和7年体育学部卒）が金メダル、バレーボール女子の山口真季選手（令和3年体育学部卒）が銀メダル、ハンドボール男子の玉川裕康選手（平成30年体育学部卒）と中田航太選手（令和4年21世紀アジア学部卒）が銅メダルを獲得し、晴れ舞台で躍動した。


ラオス代表として個人総合で華麗な演技を披露したピラパンデ選手　＝アフロ提供

ピラパンデ選手笑顔咲く

吉田選手　シングルロープ　チームフリー　金メダル

アジアジャンプロープ選手権

5日にかけて中国・紹興市で開催され、吉田恵梧選手（体育2年）がシングルロープチームフリーで金メダルを獲得した。吉田選手は、動きやパフォーマンスでの得点を競う「フリースタイル」のチーム フリー種目に出場。1本の縄跳びを巧みに操りながら、4人のメンバーによる息の合ったアクロバティックな動きで会場を席巻し、見事アジアの頂点に立った。

試合を振り返り、「今後も技に磨きをかけながら、個人・団体ともに、世界の舞台で戦える選手となれるよう頑張っていきます」とさらなる高みを見据える。日本代表としての飛躍を誓う吉田選手に、今後も大きな注目が集まる。


ロープを巧みに操る吉田恵梧選手

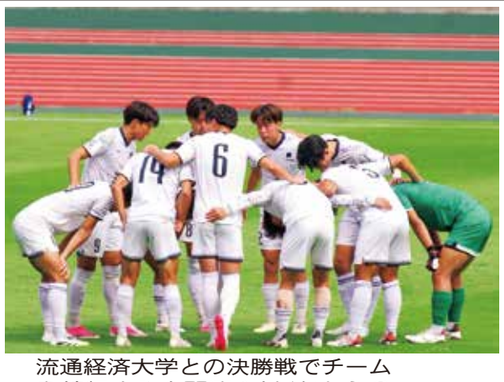
総理大臣杯サッカー準優勝

本間選手、全5試合ゴール

第50回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントが9月2日から12日にかけて行われ、本学は準優勝となった。

関東地区第4代表の本学は、主将の本間凜選手（体育4年）を中心に躍進。本間選手は1・2回戦ともに途中出場ながら得点を決めて逆転勝利を演出すると、準々決勝ではハットトリック、準決勝では2ゴールと圧巻のパフォーマンスで本学を4大会ぶりとなる決勝進出へ導いた。

決勝は、流通経済大学と対戦。本学は、前半で退場者を出し、2点ビハインドを背負う苦しい展開に。後半6分には本間選手が小西脩斗選手（21ア4年）のコーナーキックをヘディングで合わせて5試合連続のゴールを決めるなど意地を見せたが、1対2で惜敗。優勝には届かなかったものの、第50回の節目の大会で最後まで健闘した。


流通経済大学との決勝戦でチームを鼓舞する本間凜主将（左から2番目）と士気を高めるメンバー

波紫・松下ペア準V　ビーチバレー大学選手権

第38回全日本ビーチバレーボール大学選手権大会が、8月4日から6日に神奈川・川崎マリエンビーチバレーコートで開催され、本学男子バレーボール部の波紫伊那蔵選手（21ア3年）・松下道一選手（同2年）ペアが準優勝に輝いた。

同ペアは、初戦のストレート勝ちで勢いをつけると、準決勝では天理大学と対戦。1セット目を落とす苦しい展開ながらも、2セット目を取り返し勝負は第3セットへ。息をのむ攻防の中、「苦しい状態でも、お互いに声を掛け合い笑顔でプレーできる」という武器を存分に生かし、15―13でレース終盤にわずかに先行され、あと一歩で箱根路への切符を手にすることは叶わなかった。

主将の江上天晴選手（21ア4年）は、「この結果は悔しさしかありません。しかし、チームは確実に力をつけているので、来年こそはリベンジを果たしてほしいです」と涙ながらに話した。

小川博之駅伝監督は、「選手たちは最後までよく戦い抜いてくれました」と選手の健闘をねぎらいながら「チームは着実に成長してきています。今回の悔しさをバネに、来年こそは箱根駅伝に出場します」と、応援に駆け付けた関係者へ感謝を述べ、雪辱を誓った。


©Getsuriku
本大会出場を目指して力走する選手ら。江上主将（右）が集団走をけん引

箱根駅伝　あと一歩及ばず

予選会11位、リベンジ誓う

第103回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）の予選会が10月17日、東京・立川市で行われた。コースは、陸上自衛隊立川駐屯地から昭和記念公園にゴールする全長約21㌔で、上位10校に本大会出場権が与えられる。本学は10時間41分54秒で、エントリー45校中11位となり、本大会出場を逃した。

本学は今年度から新コーチ2人を迎え、走り込みの距離を伸ばすなどチーム強化に取り組んできた。レースでは、キプニ・エヴァンス選手（21ア1年）が積極的な走りで上位集団に食らいつき、個人11位でフィニッシュ。エースの山中寿世夢選手（体育4年）が続き、他の選手らも集団走を展開し、粘り強い走りを見せた。前半は本大会出場ラインの順位を保つも、レースの終盤にわずかに先行され、あと一歩で箱根路への切符を手にすることは叶わなかった。

主将の江上天晴選手（21ア4年）は、「この結果は悔しさしかありません。しかし、チームは確実に力をつけているので、来年こそはリベンジを果たしてほしいです」と涙ながらに話した。

小川博之駅伝監督は、「選手たちは最後までよく戦い抜いてくれました」と選手の健闘をねぎらいながら「チームは着実に成長してきています。今回の悔しさをバネに、来年こそは箱根駅伝に出場します」と、応援に駆け付けた関係者へ感謝を述べ、雪辱を誓った。

国士舘大学は、東京マラソン2027に協力しています

国士舘は、世のため人のために尽くせる人材「国士」の養成を目指し、「活学」を講ずる道場として1917年に創立しました。
社会貢献すなわち「他への献身」「真心をもって人に尽くすこと」という考え方に基づく活動の一つとして、東京マラソンにおいてボランティア活動を行っています。

これからも国士舘大学は、東京マラソンのサポートに限らず、さまざまなフィールドで社会に貢献していきます。


©東京マラソン財団　BLS隊
沿道救護　〉〉
2007年の第1回大会から沿道救護チームを編成し、ランナーの快適な走りをサポートしています。
©東京マラソン財団　モバイルAED隊

活躍するスポーツ

【柔道】
●2026年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9／12～13）
男子73㌔㍍級
3位　夏坂匠平（体1年）
男子81㌔㍍級
2位　佐藤光晟（体1年）
3位　織田照弓（体2年）
女子48㌔㍍級
3位　納庄千寿（体2年）
【レスリング】
●令和8年度全日本学生レスリング選手権大会（8／20～23）
男子グレコローマンスタイル
60㌔㍍級
2位　今井悠稀（体4年）
男子フリースタイル
70㌔㍍級
3位　加成真之介（体2年）
125㌔㍍級
3位　宇都宮快斗（体3年）
3位　阿部天臥（体1年）
【陸上競技】
●第21回トワイライト・ゲームス（8／8）
女子やり投げ
3位　曽野雅（体3年）
【新体操（女子）】
●第78回全日本学生新体操選手権大会（8／19～21）
女子個人総合
2位　鶴田芽生（21ア2年）
3位　西村美紗（体4年）
女子団体総合
3位　国士舘大学
【アーティスティックスイミング】
●WORLD AQUATICS ジュニアアーティスティックスイミング選手権（8／12～16）
ミックス・デュエット
3位　百々愛菜実（理1年）
【トライアスロン】
●第21回日本デュアスロン選手権（10／4）
エリートU23女子
3位　河田そら（政3年）
【日本拳法】
●第37回東日本大学選手権大会
女子の部
優勝　国士舘大学

次世代の競技力向上・育成へ

高校生らと交流試合　男子バレー部

「朝倉杯」催し指導も　レスリング部

本学スポーツ協議会指定クラブでは、高校生らを対象とした試合を主催し、年齢カテゴリを越えた交流や次世代の育成の場を設けている。

男子バレーボール部は、8月19日から21日にフレンドリーマッチを主催し、高校や大学16チームが町田キャンパスで交流試合を行った。大会では、大学と高校とのマッチアップ、本学施設内での宿泊・食事の環境を整え、来場者らの競技力向上に寄与した。

レスリング部は9月12日、高校生トーナメント「朝倉杯」を主催し、7チームが参加した。試合は団体戦形式を採用し、各校が優勝を目指して熱戦を繰り広げた。学生らは、審判や進行役などの役割を担ったほか、事前の練習会では高校生に技術指導を行い、積極的に交流を深めた。

学生にとっても、競技を新たな視点から捉える貴重な機会となっている。